

平成22年度 シラバス	学年・期間・区分	2年次・通年・A群
	対象学科・専攻	機械・電気電子・電子制御・情報・土木工学科
倫理 (Ethics)	担当教員	中村 隆文 (Nakamura, Takafumi)
	教員室	一般科棟3階 (tel.42-9043)
	E-Mail	nakamura@kagoshima-ct.ac.jp
教育形態 / 単位の種別 / 単位数	講義 / 履修単位[講義] / 2単位	
週あたりの学習時間と回数	[授業(100分) + 自学自習(80分)] × 30回	
〔本科目の目標〕 青年期の特質と課題を理解すると同時に、先達の思想について、その基本事項を理解する。それによって、自己を客観的にとらえ、自己の生き方を模索するための自覚的態度を養うことが本科目の目標である。		
〔本科目の位置付け〕 1年次の「歴史」を基礎としつつ、スタンダードな倫理思想史を学び、下記の授業項目にそって個々の問題を考察・検討していく。3年次の「政治・経済」、4年次の「倫理学」「哲学」に関連する基礎知識として位置づける。		
〔学習上の留意点〕 単になる暗記に終わることなく、自分自身で問題を考え抜く態度を身につけること。 教科書や適宜配布するプリントを参考に毎回復習し、80分以上の自学自習を行うこと。		
〔授業の内容〕		
授 業 項 目	時限数	授 業 項 目 に 対 す る 達 成 目 標
第1章 青年期の課題と自己形成 1. 青年期の意義 2. 青年期の課題と生き方	4 4	マージナルマン、モラトリアムなど、青年期特有の諸問題を理解できる。 アイデンティティや自己実現などの重要性を理解できる。
第2章 人間としての自覚 1. 哲学と人間 前期中間試験	6 2	ギリシア・ヘレニズム・ローマ・中国思想の特質を理解できる。 第1章と第2章1節について達成度を確認する。
2. 宗教と人間 3. 芸術と人間	4 2	ユダヤ・キリスト教、イスラム教、インド思想、仏教などを理解する。 芸術と人間性との関わりについて理解する。
第3章 国際社会に生きる日本人の自覚 1. 日本人の精神風土 2. 外来思想と日本の伝統思想 3. 西洋思想と日本人の近代化 4. 国際社会に生きる日本人の自覚 前期期末試験 答案返却・解説	2 2 2 2 2	日本古来の自然観・世界観を理解する。 仏教受容と、その後の日本独自の文化形成について理解する。 明治以降の近代日本について理解を深める。 第二次世界大戦以降の現代日本について理解を深める。 第2章2節から第3章4節までの達成度を確認する。
第4章 現代を生きる人間の倫理 1. わたしたちの「いま」 2. 人間の尊厳 3. 民主社会の倫理 4. 新たな人間象の模索 5. 自然や科学技術と人間のかかわり 後期中間試験	4 4 2 2 2 2 2	現代における合理主義・人間中心主義の功罪について理解する。 西洋近代における倫理思想について理解を深める。 市民社会の成立に関わる各種社会思想についての理解を深める。 近代以降、「主体性」がどのように変貌してきたかを理解する。 近代から現代までの各種科学観について理解する。 第4章1節から5節までの達成度を確認する。
6. 民主主義の成熟のために	2	フェミニズムやロールズの正義論について理解する。
第5章 現代の課題を考える 1. 生命倫理 2. 環境と環境倫理 3. 変容する家族 4. 情報社会の中の人間 5. グローバル化する社会の中の人間 6. 豊かな社会とは何か 後期期末試験 答案返却・解説	2 2 2 2 2 2 2	インフォームドコンセントやQOLなどについての理解を深める。 環境倫理におけるさまざまな問題の背景について理解する。 家族・コミュニティーの変化、人生観の変化について理解する。 情報化社会における各種問題について理解する。 グローバル化のもとで生じるメリットと今後の課題について理解する。 人類の「豊かさ」について、さまざまな角度から考え、理解を深める。 第4章6節から第5章6節までの達成度を確認する。
〔教科書〕『倫理』（平木幸二郎 ほか7名、東京書籍、2008）		
〔参考書・補助教材〕 必要な資料文献は適宜プリントとして配布する。		
〔成績評価の基準〕 中間および期末試験成績（80%）とレポート（20%） - 授業態度（上限20%）		
〔本科（準学士課程）の学習教育目標との関連〕 1-a, 4-a		
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕		
〔JABEEとの関連〕		